

# 令和4年度 気仙沼市立鹿折小学校

## 「海と生きる探究活動」実施状況及び学校関係者評価

### 1 「海と生きる探究活動」実施状況（年間時数）

	計画	実施	備考
第3学年	50	50	
第4学年	50	53	余剰時数より3時間増（新たな単元の設定）
第5学年	60	60	
第6学年	61	62	余剰時数より1時間増（新たな講師の授業実施）

※令和5年度も、余剰時数を5時間程度確保し、柔軟に取り扱えるようにする。

### 2 「海と生きる探究活動」学校評価

評価内容	1回目	2回目
SDGs との関連をおさえ、本校の教育活動のねらいを捉えて教育活動を実践している	87%	87%
地域人材を生かした探究的な学習を実践している	87%	87%
「海と生きる探究活動」で培う資質能力を明確にし、海洋教育リテラシーfor 気仙沼の育成を図っている	60%	87%
E S D、海洋教育でつながりのある学校と交流し、共に学ぶ喜びを育てている	53%	86%
外部と連携し、E S Dや海洋教育を通して協同教育を推進している	93%	100%

※職員の割合は、肯定的な評価（S、A、B）を合わせた値である。

※1回目：令和4年7月実施、2回目：令和4年12月実施

#### <意見>

- ・海洋教育については、積み重ねを感じられる取組になったと感じる。
- ・キリバスとの交流会は有意義だった。交流を続けることで、児童はキリバスのことが自然に思い浮かぶようになって感じた。今後も計画をしっかり立て続けていけるとよい。
- ・海洋サミットで身に付けさせたい力を明確にして全職員で共有して取り組むことが必要である。

	1回目	2回目
児童は、地域の体験活動や調べる活動に興味・関心をもって取り組んでいる。	85%	83%
児童は、地域の体験活動や調べる活動を通して学習を深めている。	78%	83%

※職員の割合は、肯定的な評価（かなりそう思う、そう思う）を合わせた値である。

※1回目：令和4年6月実施、2回目：令和5年1月実施

### 3 「海と生きる探究活動」児童、保護者、学校関係者評価

#### (1) 児童（1回目：9月、2回目：1月実施）

質問項目	回数	とても	まあまあ	あまり	まったく
鹿折や気仙沼について、進んで調べようとしていますか。	1回目	21.9%	53.0%	16.6%	8.6%
	2回目	25.8%	52.1%	18.4%	3.7%

質問項目	回数	とても	まあまあ	あまり	まったく
鹿折や気仙沼の自然について、もっと知りたいと思いますか。	1回目	33.8%	49.0%	9.3%	7.9%
	2回目	44.9%	42.0%	10.1%	2.9%

質問項目	回数	とても	まあまあ	あまり	まったく
鹿折や気仙沼をすてきなまちにしたいと思うようになりましたか。	1回目	57.6%	35.1%	6.0%	1.3%
	2回目	64.4%	28.8%	6.1%	0.6%

質問項目	回数	とても	まあまあ	あまり	まったく
学校の学習で、知りたいことや調べたいことを見つけることはできますか。	1回目	27.8%	53.6%	13.2%	5.3%
	2回目	31.3%	55.2%	11.0%	2.5%

質問項目	回数	とても	まあまあ	あまり	まったく
学校の学習で、知りたいことや調べたいことを自分の言葉で表すことができますか。	1回目	25.8%	46.4%	22.5%	5.3%
	2回目	29.4%	44.2%	19.6%	6.7%

質問項目	回数	とても	まあまあ	あまり	まったく
課題についてどのように調べるかを考えていますか（低） 調べる方法を1つだけでなく、いくつか考えていますか（中・高）	1回目	21.9%	49.0%	23.8%	5.3%
	2回目	30.1%	50.3%	14.7%	4.9%

質問項目	回数	とても	まあまあ	あまり	まったく
調べるときに本や図鑑を使って調べていますか。	1回目	31.1%	43.7%	19.9%	5.3%
	2回目	33.7%	39.9%	21.5%	4.9%

質問項目	回数	とても	まあまあ	あまり	まったく
調べるときにタブレットやパソコンを使って調べていますか。	1回目	40.4%	39.1%	15.2%	5.3%
	2回目	54.6%	31.3%	8.0%	6.1%

質問項目	回数	とても	まあまあ	あまり	まったく
調べるときに鹿折や気仙沼のまちに出かけて調べていますか。	1回目	11.9%	41.1%	27.2%	19.9%
	2回目	17.2%	42.9%	27.6%	12.3%

質問項目	回数	とても	まあまあ	あまり	まったく
調べるときに家や地域の人に聞いて調べていますか。	1回目	18.5%	35.8%	27.2%	18.5%
	2回目	19.0%	42.3%	28.2%	10.4%

質問項目	回数	とても	まあまあ	あまり	まったく
発表のための原稿は自分でつくることができますか。（3～6年）	1回目	32.0%	52.4%	11.7%	3.9%
	2回目	32.1%	50.0%	15.2%	2.7%

質問項目	回数	とても	まあまあ	あまり	まったく
発表のための資料は自分でつくることができますか。（3～6年）	1回目	31.1%	56.3%	8.7%	3.9%
	2回目	31.3%	53.6%	13.4%	1.8%

質問項目	回数	とても	まあまあ	あまり	まったく
発表するときは、相手によく伝わるように工夫することができますか。	1回目	30.5%	53.0%	13.2%	3.3%
	2回目	30.1%	55.2%	11.7%	3.1%

質問項目	回数	とても	まあまあ	あまり	まったく
他の人の発表を聞いて、よいところを見つけることができますか。	1回目	33.1%	52.3%	11.3%	3.3%
	2回目	36.2%	54.6%	8.0%	1.2%

<考察>

- ・海と生きる探究活動を通して「もっと知りたい」「調べてみたい」という意欲の高まりが見られる。
- ・課題を見付けることはできるが、自分の言葉で課題を設定したり、課題解決への方法を複数見付けたりすることが苦手な児童もいる。
- ・コロナ禍の影響により、自分で出かけて調べる児童が少なかった。
- ・探究学習の方法について児童に指導していくことが必要である。また、課題解決に向けて「どこで」「だれに」「なにを」調べるのかを考えさせ、自分の足で解決させることも行っていく。

(2) 保護者(1月実施)

1 あなたは、お子さんが学校で行っている地域の学習(生活科、海と生きる探究活動)についてお子さんの取組を知っていますか。

	とても	まあまあ	あまり	全く
全体	27%	58%	15%	0%
低学年	19%	58%	23%	0%
中学年	33%	58%	9%	0%
高学年	28%	59%	13%	0%

<考察>

全体として8割を超える認知度であるが、中学年が特に高い割合であった。中学年は天旗や鹿折川など地域で活動していることが要因と思われる。地域とつながりのある学習を行うこと、取組を紹介することを行っていくことが重要である。

2 あなたは、海洋教育がお子さんの学力向上や地域の理解につながっていると思いますか。

	とても	まあまあ	あまり	全く	分からない
全体	28%	57%	6%	0%	9%
低学年	35%	46%	15%	0%	4%
中学年	24%	67%	3%	0%	6%
高学年	28%	56%	3%	0%	13%

<考察>

学年が上がるにつれて、学習内容が難しくなることもあるため、「分からない」と回答する割合が高くなっているが、全体として8割を超える保護者が学力向上、地域の理解につながっていると感じている。

3 海洋リテラシー(活用する能力)について、お子さんに身につけさせたいと思うものにチェックしてください(いくつでもかまいません)

リテラシー項目	全体	低学年	中学年	高学年
気仙沼の海に触れ、実際に海を体験する	57%	65%	42%	62%
海の生き物の生命がつながっていることを知る	39%	50%	30%	41%
海が生命を育てていること、海と生命が直接的・間接的につながっていることを知る	49%	54%	39%	56%
海は「食」を通じて私たちの生命を維持していることを知る	52%	58%	45%	54%
海の生き物は消費・経済活動を支えていることを理解する	40%	50%	33%	41%
地域の地理的特徴に対して、海がもたらした影響を理解する	38%	31%	39%	44%
外洋や海流の仕組みを理解する	28%	15%	27%	38%
地球温暖化と海水の関係を理解する	46%	38%	48%	51%
地域の漁業や養殖業の歴史や文化、技術を尊重する	33%	27%	33%	38%
海が地域にもたらした災害と復興の歴史を知る	48%	58%	42%	49%
海といきるまちづくりについて知る	49%	50%	48%	51%

<考察>

全学年で身につけさせたいと回答した割合が高いリテラシーとして「海を体験する」「食を通じた生命維持」が挙げられる。今後も体験活動を通じた学習や給食の時間に地元の食材を紹介するなど行っていくことが重要である。また、「海と生きるまちづくり」の割合も高く、将来気仙沼を背負う人材を育成する観点も取り入れていくことも必要である。

<海洋教育やESDの取組、海と生きる探究活動に関しての意見>

- ・海が町に与えてきた影響(良くも悪くも)や今後どのようにして海と付き合っていくか。そして新たな海の活用法(エネルギー開発や産業など)を考える機会もあるとよい。
- ・とても素晴らしい取組と思っておりますので、子供たちのためにも今後も続けてほしいと思っております。
- ・子供たちが楽しめる仕組みを取り入れて、学びに繋げていけたらいいと思います。

### (3) 学校関係者

	1回目	2回目
児童は、地域の体験活動や調べる活動に興味・関心をもって取り組んでいる。	100%	100%
児童は、地域の体験活動や調べる活動を通して学習を深めている。	89%	100%

※学校関係者の割合は、肯定的な評価(かなりそう思う, そう思う)を合わせた値である。

※1回目:令和4年6月実施, 2回目:令和5年1月実施

※学校関係者については、学校評議員や子ども見守り隊、講師として学校へ来ていただく方から回答を得た。